

枚方市教育大綱

平成28年3月

枚方市

目 次

はじめに	1
1 大綱の位置づけ	2
2 大綱の対象期間	2
3 教育方針	3
4 教育行政の推進にあたって	3
＜方針の策定にあたっての考え方＞	4

○ はじめに

平成27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、新しい教育委員会制度が始まりました。新しい制度においては、地方公共団体の長は、教育の総合的な施策について、その目標や根本となる方針を定める「大綱」を策定することとされました。

また、新しい制度に基づき、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育のあるべき姿や課題について共有し、教育行政における地域住民の意向をより一層反映させる目的で、市長と教育委員会が協議、意見交換を行う場として、市長が招集する総合教育会議を新たに設置しました。

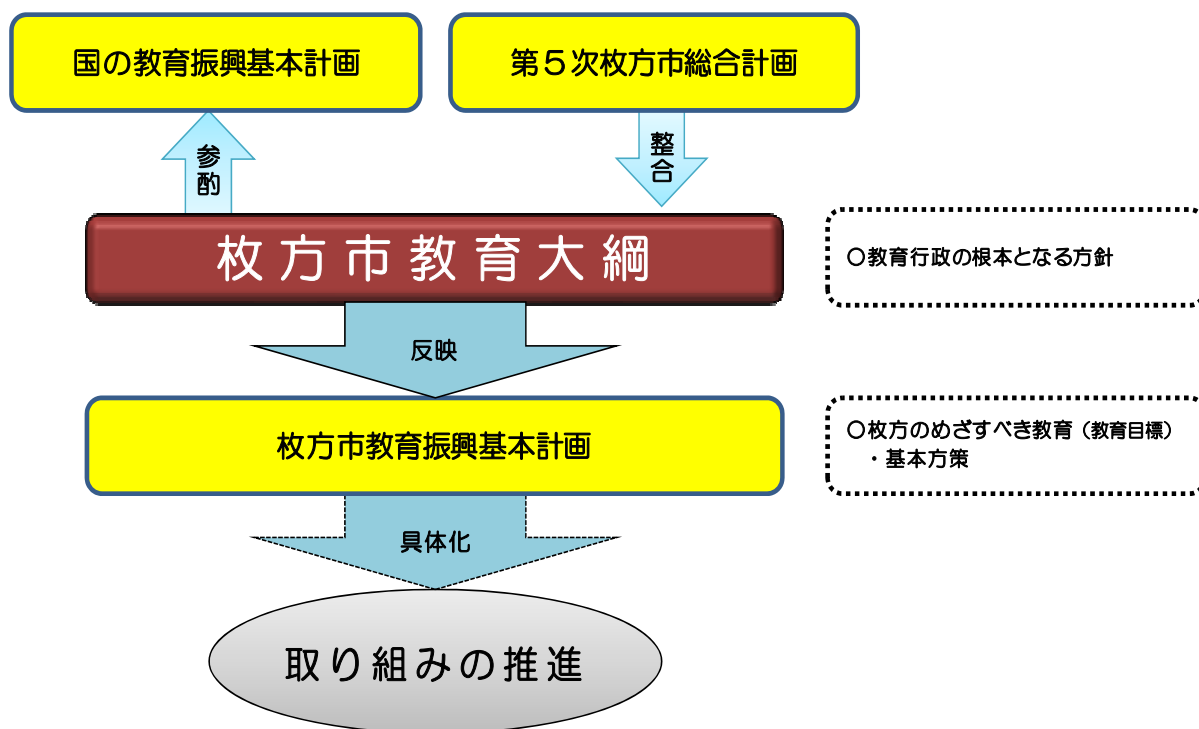
「大綱」の策定に当たり、総合教育会議において教育委員会と協議を行い、私の理念である「すべての子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす教育」のあり方に関する私の考えを教育委員会と共有しました。未来を生きる子どもたちに必要なのは、ますます進展するグローバル社会を果敢に生き抜く力を身につけることだと考えています。

枚方の子どもたちが、確かな学力を身につけ、豊かな心を育み、健康に育つことを目指し、総合教育会議において得られた共通認識を踏まえ、枚方の教育行政の根本となる方針について市長として「大綱」に取りまとめました。今後、この「大綱」に基づき、市長と教育委員会がそれぞれの役割と責任のもとに教育行政を推進してまいります。

平成28年3月
枚方市長 伏見隆

1. 大綱の位置付け

この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、国の教育振興基本計画を参酌するとともに、第5次枚方市総合計画の基本構想に掲げる5つの基本目標のうち「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」を踏まえ、子どもたちが未来に夢と希望をもって羽ばたいていけるよう、これからの本市教育行政の目標や施策の根本となる方針を定めるものです。



2. 大綱の対象期間

大綱の対象期間は、文部科学省初等中等教育局長通知において4年～5年とされており、本市においては第5次総合計画の実行計画の期間との整合を図るため、平成28年度から平成31年度までの4年間とします。

3. 教育方針

教育の使命は、子どもたち一人ひとりの未来への可能性を最大限に伸ばし、これからのグローバル社会を担い、生き抜く力を育むことにあります。

また、教育の充実したまちとしての枚方市の魅力をより高め、広くアピールし、多くの人に「枚方で子どもを学ばせたい、育てたい」と思ってもらえることが、少子高齢化が進展する中でも、活力のあるまちづくりにつながります。

こうした新しい枚方の創造に向けたまちづくりの観点から、本市教育行政の目標や施策の根本となる方針として次の3点を定めます。

方針Ⅰ

知・徳・体の調和のとれた生きる力を育み、子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育を充実させます。

方針Ⅱ

子どもたちが学ぶ楽しさを感じながら、安全に安心して生き生きと学校での生活を送れるよう学びのセーフティーネットを構築するとともに、教育環境を充実させます。

方針Ⅲ

学びの機会の提供や、知の源泉となる図書館の充実、文化・芸術・歴史・スポーツに親しめる環境づくりなど、人とまちを支える社会教育を推進します。

4. 教育行政の推進にあたって

上の3点の方針に基づいて、枚方の活力ある未来に向けた教育行政を推進していきます。その成果については、総合教育会議で検証を行っていきます。

<方針の策定にあたっての考え方>

方針Ⅰ

知・徳・体の調和のとれた生きる力を育み、子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育を充実させます。

(求められていること)

社会経済状況や家庭環境など子どもを取り巻く環境が大きく変化し、また、グローバル化の進展に伴い国際社会の構造や情勢が変動していく中で、子どもたちには、これからの社会をたくましく生き抜くための力を育むことが求められています。

生きる力を育むためには、知「確かな学力」、徳「豊かな人間性」、体「健康・体力」をバランスよく育成していくことを基本に、子どもが成長していく過程において、良好な人間関係を構築するとともに自ら考え、判断し、課題を解決する力や自らを律する力を育むことが重要です。

(取り組みの姿勢)

「確かな学力」を身につけていくためには、まず、各教科において基礎的・基本的な知識及び技能を確実に修得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などを育むことが重要です。

そのため、全国学力・学習状況調査の分析結果を授業改善などに活用するとともに、全中学校区で9年間を見通した教育課程の編成や、いわゆる中一ギャップへの対応など「小中一貫教育」を推進し、学校力の向上を図ります。

また、児童・生徒の発達段階に応じて、きめ細かな指導を行うための少人数学級編制の実施や一部教科担任制の実施、習熟度に応じた少人数指導体制等を充実し、専門性の高い指導を通して子どもたちの「確かな学力」を育みます。

「豊かな人間性」を身につけていくためには、道徳教育・人権教育などを通じて規範意識を培い、自他の生命や平和を大切にする心を養うとともに、学校図書館の充実や、英語教育の推進による言語能力、コミュニケーション能力の育成、また、文化・芸術、古典に親しむ機会の充実や、野外での体験学習の拡充を図り、学校・家庭・地域が連携しながら、子どもの社会性や公共の精神、思いやりの心などを育てていきます。すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」教育を充実させるとともに、障害のある子ども一人ひとりのニーズを踏まえた支援の充実を図ります。

「健康・体力」を身につけていくためには、子ども自ら心身の健康の保持・増進を図る能力を育むことが必要であり、食育をはじめとした健康教育を推進するとともに、

体力向上の取り組みや部活動の充実、学校給食の充実を図ります。

さらに、学習指導要領の改訂も踏まえ、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習をさらに充実させるなど、子どもたちの「自立」「協働」「創造」する力を育む新しい教育に向けた取り組みを推進します。

以上を効果的に推進するために、経験の浅い教職員の育成や、専門性を備えたリーダーの養成など、将来を見据えた教職員の資質、指導力の向上を図るため、教職員研修の充実を図ります。

これらの取り組みを、着実に進めることで、子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育を充実させていきます。

方針Ⅱ

子どもたちが学ぶ楽しさを感じながら、安全に安心して生き生きと学校での生活を送れるよう学びのセーフティーネットを構築するとともに、教育環境を充実させます。

(求められていること)

子どもたちが学ぶ楽しさを実感できるよう教育環境を充実させていく必要があります。また、いじめや不登校などの課題が深刻化する中で、子どもたちが安全に安心して生き生きと学校での時間を過ごせる環境づくりが求められています。

(取り組みの姿勢)

多くの学校施設で建築後相当年数が経過し、老朽化が進んでいることから、学校施設を計画的に更新整備します。また、教育の情報化を推進し、ICT機器の活用による新たな学びの推進を図るなど、快適な学習環境を確保します。

また、近年、登下校時の交通事故や不審者により子どもが犠牲となる事件・事故が生じており、子どもが安全で安心して学べる環境を確保するため、安全教育や放課後の居場所づくりの充実を図るとともに、防犯カメラなどによる通学路等の安全対策を強化します。

また、学校・家庭・地域・関係機関が連携し、いじめの未然防止や早期発見を図るとともに、不登校・虐待など子どもの抱える課題の解決に向けた取り組みや、貧困の連鎖を防止するため、生活困窮世帯の子どもに対する支援を行うなど、学びのセーフティーネットの構築を図ります。

方針Ⅲ

学びの機会の提供や、知の源泉となる図書館の充実、文化・芸術・歴史・スポーツに親しめる環境づくりなど、人とまちを支える社会教育を推進します。

(求められていること)

社会が激しく変化し、複雑になる中で、生涯にわたり自らに必要な知識や能力を身に付けることが求められており、子育てや、健康・医療、安全・防災など、様々な課題に関する学習機会が生涯にわたって提供されることが必要です。また、一人ひとりの市民が人生を豊かにするため、多様な個性・能力を開花させること、ふるさと意識やまちへの愛着を育むこと、生涯にわたって健やかな生活を過ごすための体力づくりを支えることが求められています。

(取り組みの姿勢)

それぞれの分野における関係機関・団体との連携を強めながら、特に基礎的な知識・技術の学習機会の提供に取り組むとともに、図書館においては、資料の系統的な収集などの基礎的な図書館サービスを充実し、市民が抱える各種課題の解決に向けた支援を強化します。また、子どもの読書活動を推進し、文化・芸術や自然の中での活動など、様々な体験ができる機会を確保します。さらに、市内の貴重な歴史文化遺産を生かして、子どもたちや市民の郷土の歴史への理解を深めるとともに、歴史の薫り豊かなまちづくりや文化観光への活用・発展を進めます。また、身近にスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。